

報文

砂川・不動橋河岸林の保全活動とその意義

椎葉 迅

(砂川流域ネットワーク)

要旨

狭山丘陵は多様な生き物が生息する貴重な樹林地帯である。しかし、周囲に広がる平野部の緑地や里山は破壊が進み、危機的状況である。狭山丘陵の豊かさは、周りの里山や畑地、川と湿地など、広域的多様性が存在することで保たれている。

それらを破壊から守り、再生・創造を目指す砂川流域ネットワークの活動報告である。

キーワード: 官民の理解と率先が要; 生態系に重要な川; 絶滅危惧種の保全

はじめに

砂川の概要

砂川は狭山丘陵に源流を発生し、荒川水系に属する新河岸川へ注ぐ全長約18kmの川である(図1)。源流から小手指付近までは細かに蛇行し、樹木に覆われた自然が残り、岸边には四季を通じて野草が咲き、河岸には多くの絶滅危惧種も自生する、狭山丘陵の生物多様性を支える重要な「緑の回廊」(杉山 1995)である。中でも不動橋河岸林は、それらが集約的に観られる「貴重野草の宝庫」となっている。

砂川流域ネットワーク(以下砂川ネット)が活動を開始した頃(2000年)迄は、誓詞橋下流付近でホタルが観られたのが、近年は全く姿を消してしまった。護岸工事や、樹木の伐採などが主因と思われるが、本格下水道の普及に伴う流量減少も要因の1つかと想像される。

樹木と野草に覆われ、土むき出しの蛇行岸边でありながら、流れる水は悪臭を放ち、水生生物がほとんど生息しておらず、生態系バランスは良好とは言えない。

生物多様性保全に向けて

乾燥地でも水辺を伴えばより多くの動植物が繁殖する。砂川は水が流れていても水生生物は少ない川である。流路の途中に多くの落差工があり、生態的連続性が断たれているからである(リバーフロント整備センター 1996)。

小手指遊水池をビオトープに改造し、途中の休耕地も湿地にすれば、飛び石状にビオトープが点在することになり、河岸林で結ばれて豊かな「緑の回廊」で狭山丘陵が繋がることになる。

周辺の都市化による川の急増水と急減は、今後も増大することであり、それを護岸工事で対策するのでは多様な生き物は棲めず、益々喪失させることになる。少子化時代の人口減少を見据えた大胆な保全策をたて、生物多様性保全への行動を起こすべきである。

貴重野草の宝庫「不動橋」

西武池袋線路脇の小手指遊水池より約 2km 付近に不動橋は位置する。兩岸を林に囲まれ、中を分断する砂川は、自然河岸が曲がりくねり、林床にはイチリンソウ、キツネノカミソリなど 6 種の準絶滅危惧種、絶滅危惧種（埼玉県 2005）が自生する（図 2）。

活動の経緯 ~ そして「トトロの森 14 号地」へ

砂川ネットが活動開始して間もない頃、笹藪に覆われたキツネノカミソリを発見し、下草刈りや落葉掃きなどの手入れを始めた（図 3）。回数を重ねる毎に株数が増え、大きな群落となった。また、イチリンソウも花を咲かせるようになり、春と夏には市民の人気スポットとなっている。

保全作業には当然ながら地権者の承諾が必要である。下流側進入路際と上流側奥の林は地権者が異なっていて、全域の立ち入り承諾を得る迄には、かなりの時間を要することになったが、両者共に理解が深く、「砂川ネット」の活動を快く受け入れて頂いた。

長年放置されていた樹林でも、人の手が入り、太陽の光を受けることで、予想もしない植生の出現は、神秘性を感じる一瞬であり活動の喜びでもある。林床の手入れを開始して 4 年位経った頃、キンランの花を見つけた時の感激は、会員一同忘れられない思いが強く、活動の継続と意欲への更なる励みとなっている。

緑を守るには先ずは土地が残らなければならない。「みどり豊かなまちづくり」の文言を掲げるのみで緑は残らない。地権者の理解と協力要請への行動が必要である。市民のささやかな行動でも、地権者の理解が深まり、(財)トトロのふるさと財団の決断と交渉によって「トトロの森 14 号地」が誕生したのである。

調査区の設定と方法

調査は不動橋河岸林の左岸で行った。全域面積は約 900 m²である。10m×10m の調査区を 9 箇所設置し、樹木調査を行った（図 4、図 5）。中央が蛇行する砂川、右端が不動橋である。樹木調査として、幹周 1cm 以上かつ樹高 1.3m 以上の樹木を対象に、種名と幹周(cm)を記録した。調査は 2010 年 10 月と 11 月に行った。

下層植生の調査は、2007 年 12 月から 2010 年 12 月までに調査したデータを基に、10m×10m の各調査区内に出現した種名の記録を行った。

結果

樹木調査と下層植生調査の結果を表 1 に示した。調査区全体で、樹木は 231 本が調査対象となり、25 種出現した。主要な樹木を図 6 に示し、幹周 1m 以上の樹木を図 7 に示した。幹周最大樹木は、幹周 181cm のエノキであった。下層植生調査では、60 種が記録された。

記録された種のうち、全国 47 都道府県及び環境省のレッドデータ記載種を表 2 にまとめた。記録された種のうち、環境省レッドデータブック記載種としてキンランが出現し、埼玉県レッドデータブック記載種は、アマナ、イチリンソウ、キツネノカミソリ、キンラン、ギンランの 5 種が出現した。また、埼玉県以外の都道府県のレッドデータブック記載種は 34 種であった。

考察と提言

首都圏に於いて、人の手が加わらなかった自然の川は珍しく、奇跡的に残った遺産である。それが今急激な勢いで壊され続けている。地元長老の話しによると、子供の頃の遊び場の砂川は、ミヤコタナゴをすくい、大きなウナギを捕って食べた思い出深い清流だったとか。過去へ戻ることは出来ないが、可能な限り努力して回復させ、貴重遺産として後世へ引き継ぐべきである。

2010年10月には、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が名古屋にて開催され、その報告会が2010年11月9日、国連大学に於いて開催された。環境省生物多様性地球戦略室長の発表と、過去の10年間の反省などが報告された。

反省として、“過去の10年は国連全体の動きとならず、一般市民の認識も低く、生物多様性の喪失を食い止めることが出来なかった”過去の反省を踏まえた、COP10は、“2011年~2022年を「国連生物多様性の10年」として、「愛知ターゲット」の目標達成に向けて自ら参加して行動する”と宣言され、「愛知ターゲット」(地域環境パートナーシッププラザ(GEOC)2010)として20の目標が採択された。

特に身近な目標は、

- 目標 1 「人々が生物多様性の価値と行動を認識する」
- 目標 4 「全ての関係者が計画を実施する」
- 目標 5 「自然生息地の損失速度を減らす」
- 目標 9 「侵略的外来種が制御され、根絶される」
- 目標 12 「絶滅危惧種の絶滅・減少が防止される」
- 目標 14 「生態系が保全され、自然の恵みが享受される」
- 目標 17 「効果的で参加型の国家戦略を策定し、実施する」

最後に、“COP10は国際的約束のみならず、市民レベルまで掘り下げる行動の始まるスタートラインである”と、環境省の担当室長同席にての宣言は印象的で、期待を感じた報告会だった。そして、各地からの参加者の発言に共通した問題点は、“行政の認識の薄さ”だった。

生物多様性保全には、まずは土地が確保されなければならない。それが多様な生物を育むビオトープとなる。樹木は水源を守り、二酸化炭素(CO₂)を吸収する。地球温暖化対策としても最重要課題の一つである。今、生き物たちは確実に絶滅へと急速に進んでいる。それは当然ながら人を含んでいる事を改めて認識し、周囲の人々にも呼びかけ、身近な問題に向けて行動を続けて行く「砂川ネット」の活動である。

・・・COP10の反省を信じて・・・。

謝辞

私たちの活動をご理解戴いた方々のお陰で、不動橋河岸林が永久保全地として、後世まで引き継がれる見通しが立ちました。地権者の近藤一彦様、小暮勝之様、そして(財)トトロのふるさと財団には改めて御礼申し上げます。

参加・協力者(敬称略・50音順)

砂川流域ネットワーク会員

秋田道子、朝倉龍紀、池田澄治、石田アイ子、井上照子、上野卓三、海老沢和子、大内澄子、大塚隆広、亀石良子、河野博明、菊一敦子、木村牧子、黒澤秀次、高羅晋秀、古閑道子、佐藤三夫、佐藤恭伍、佐野次生、柴田弘七郎、高橋さち子、高山章、滝川勇、多田喬四郎、谷口雅典、寺崎秋男、中敏春、中井るみ、永作十九子、中山健治、中村ノブ子、七井孝夫、芳賀栄士、杵山弘行、堀井達夫、黛治男、森田武、米森逞輔、

引用文献

リバーフロント整備センター(1996)多自然型川づくりの取組みとポイント.山海堂

埼玉県(2005)埼玉県レッドデータブック(植物編).埼玉県.

杉山恵一(1995)環境の物理的構造.朝倉書店

地域環境パートナーシッププラザ(GEOC)(2010)生物多様性条約COP10報告書

「日本のレッドデータ検索システム」<http://www.jpnRDB.com/>(2011/02/06アクセス)



図1 砂川の位置



図2 不動橋左岸林全景



図3 砂川流域ネットワークの活動エリア

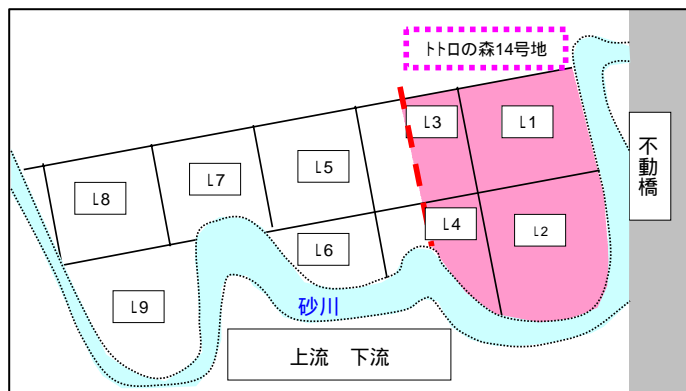


図4 調査区。下流側の1部(ピンク色の部分)は「トトロの森14号地」として取得された。

図5. 不動橋河岸林の航空写真

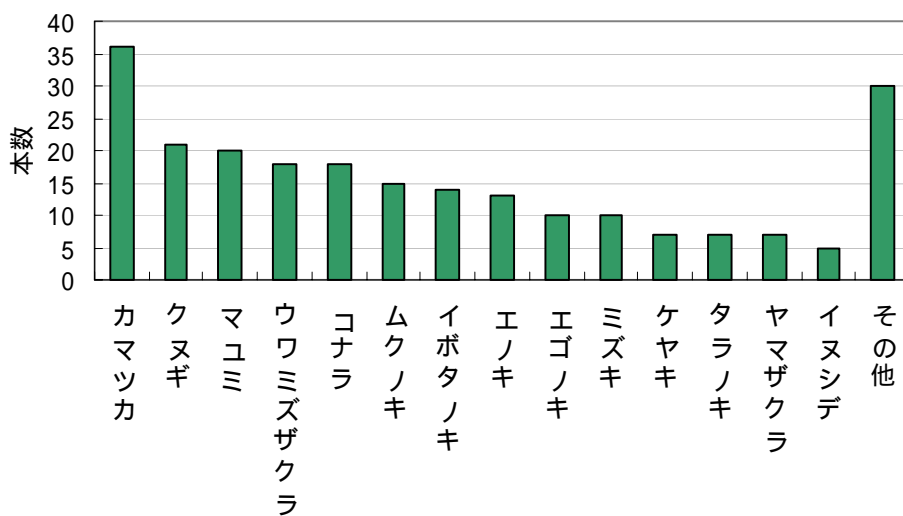


図6 主要な樹木(幹周 1cm 以上)の本数

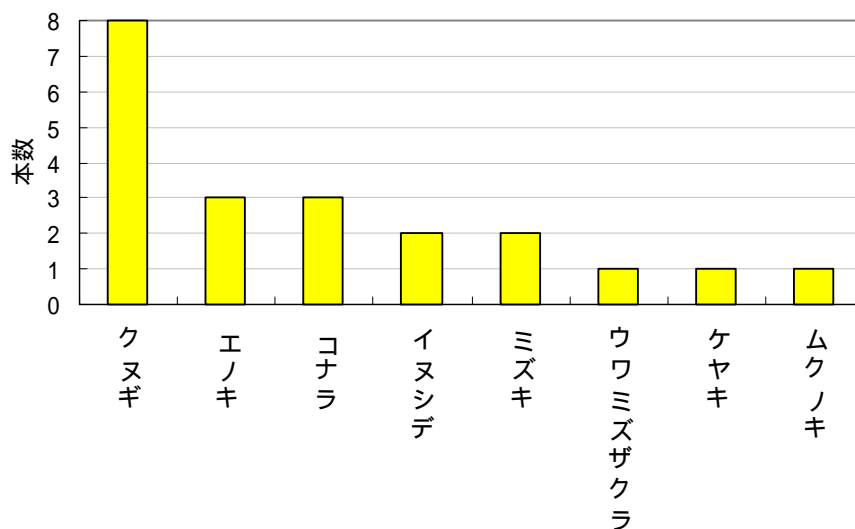


図7 幹周 1m 以上の樹木の本数

表1 樹木調査と植生調査の結果

樹 木 (幹周1cm以上、樹高1.3m以上)		下 層 植 生 (1.3m未満)				
コード	樹 名	幹 周		合 計	植 生 名	
番号		1m未満	1m以上	(本)		
L1	イボタノキ	1	0	1	アオイスミレ	
	ウワミズザクラ	6	0	6	アケビ	
	エゴノキ	2	0	2	アズマネザサ	
	カマツカ	9	0	9	イボタノキ	
	クヌギ	3	0	3	オモト	
	コナラ	9	0	9	カキドオシ	
	タラノキ	7	0	7	カタバミ	
	ニシキギ	2	0	2	ギシギシ	
	ヌルデ	1	0	1	キンラン	
	ムクノキ	2	0	2	ジャノヒゲ	
	ヤマザクラ	2	0	2	シュロ	
					ジロウボウエンゴサク	
					スイカズラ	
					セントウソウ	
					ツルボ	
					ドクダミ	
					ノイバラ	
					ヒメカンスゲ	
					ヘクソカズラ	
					ホテイチク	
					ヤエムグラ	
					ヤブラン	
L1合計	11種	44	0	44	22種	
L2	イヌシデ	3	2	5	アケビ	
	イボタノキ	5	0	5	アズマネザサ	
	ウワミズザクラ	2	0	2	イボタノキ	
	エゴノキ	1	0	1	オニドコロ	
	エノキ	3	0	3	オモト	
	カマツカ	5	0	5	キンラン	
	クヌギ	5	3	8	サルトリイバラ	
	コナラ	2	0	2	ジャノヒゲ	
	ニシキギ	1	0	1	シュロ	
	マユミ	10	0	10	セントウソウ	
	ミズキ	2	0	2	センニンソウ	
	ミヤマウグイスカグラ	2	0	2	ノイバラ	
	ムクノキ	3	0	3	ノブドウ	
	ヤマコウバシ	1	0	1	ヒガンバナ	
					ヒトリシズカ	
					ヒメカンスゲ	
					ヘクソカズラ	
					ヤマノイモ	
L2合計	14種	45	5	50	18種	
L3	イボタノキ	7	0	7	アケビ	
	カマツカ	16	0	16	アズマネザサ	
	クワ	1	0	1	アマナ	
	コナラ	1	0	1	イチリンソウ	
	コブシ	1	0	1	オオイヌノフグリ	
	ニガキ	2	0	2	キツタ	
	マユミ	2	0	2	キツネノマゴ	
	ヤマコウバシ	2	0	2	キンミズヒキ	
						ギンラン
						クサノオウ
						ジロウボウエンゴサク
						セントウソウ
						タチツボスミレ
					ノビル	
					ハナタデ	
					ヒメカンスゲ	
					ヤブラン	
L3合計	8種	32	0	32	17種	

表1 樹木調査と植生調査の結果(続き)

コード 番号	樹名	幹周		合計 (本)	下層植生 植生名
		1m未満	1m以上		
L4	イヌザクラ	1	0	1	アオイスミレ
	ウワミズザクラ	5	0	5	アケビ
	エノキ	1	0	1	アマナ
	クヌギ	1	1	2	イチリンソウ
	ミズキ	1	0	1	イヌツゲ
	ムクノキ	1	1	2	オオイヌノフグリ
					キツネノカミソリ
					キツネノマゴ
					ジャノヒゲ
					シュロ
					セントウソウ
				ノカンゾウ	
				ノビル	
				ハエドクソウ	
				ヒメカンスゲ	
				ヤブラン	
L4合計	6種	10	2	12	16種
L5	イヌザクラ	1	0	1	アケビ
	ウワミズザクラ	3	1	4	アズマネザサ
	エゴノキ	2	0	2	アマナ
	カマツカ	2	0	2	イチリンソウ
	クヌギ	0	2	2	オオイヌノフグリ
	コナラ	0	1	1	オオバジャノヒゲ
	ツルグミ	2	0	2	キツネノカミソリ
	ミズキ		2	2	セントウソウ
					ツルボ
					ニリンソウ
					ヌスビトハギ
				ノビル	
				ハエドクソウ	
				ヒメカンスゲ	
				マンリョウ	
				ヤブラン	
L5合計	8種	10	6	16	16種
L6	イボタノキ	3	0	3	アズマネザサ
	クワ	1	0	1	アマナ
	マユミ	2	0	2	イチリンソウ
					オオイヌノフグリ
					キツネノカミソリ
					クコ
					ジャノヒゲ
					セントウソウ
					チヂミザサ
					ノイバラ
					ヒガンバナ
				ヒメカンスゲ	
				ヤブラン	
L6合計	3種	6	0	6	13種

表1 樹木調査と植生調査の結果(続き)

樹 木 (幹周1cm以上、樹高1.3m以上)					下 層 植 生 (1.3m未満)
コード	樹 名	幹 周		合 計	植 生 名
番号		1m未満	1m以上	(本)	
L7	エゴノキ	1	0	1	アオイスミレ
	エノキ	0	1	1	アケビ
	カマツカ	3	0	3	アマナ
	コナラ	1	0	1	イチリンソウ
	ニシキギ	1	0	1	キツネノカミソリ
	マユミ	1	0	1	コゴメウツギ
	ミズキ	2	0	2	チヂミザサ
	ムクノキ	1	0	1	ツルボ
					ヒガンバナ
					ナンテンハギ
				フデリンドウ	
				フラサバソウ	
				マンリョウ	
				ヤエムグラ	
L7合計	8種	10	1	11	14種
L8	エゴノキ	2	0	2	アオイスミレ
	エノキ	4	2	6	アケビ
	クヌギ	1	1	2	イチリンソウ
	コナラ	1	1	2	キツネノカミソリ
	ニガキ	2	0	2	ジャノヒゲ
	マユミ	1	0	1	セントウソウ
	ミズキ	3	0	3	チヂミザサ
	ムクノキ	3	0	3	ツルニンジン
					ツルボ
					ニリンソウ
				ノイバラ	
				ノビル	
				ハエドクソウ	
				ヒガンバナ	
				ヒメカンスゲ	
L8合計	8種	17	4	21	15種
L9	イボタノキ	1	0	1	アケビ
	ウワミズザクラ	1	0	1	アマナ
	エゴノキ	2	0	2	オニドコロ
	エノキ	2	0	2	キツネノカミソリ
	カマツカ	1	0	1	クサボケ
	クヌギ	3	1	4	シオデ
	ケヤキ	6	1	7	シュロ
	コナラ	1	1	2	セントウソウ
	コブシ	1	0	1	ツルニンジン
	シュロ	4	0	4	ハエドクソウ
	フジ	1	0	1	ヒメカンスゲ
	マユミ	4	0	4	フキ
	ムクノキ	4	0	4	ヘクソカズラ
	ヤマザクラ	5	0	5	マユミ
				ヤブソテツ	
L9合計	14種	36	3	39	15種
左岸総合計	25種	210	21	231	60種

表2 植生調査で記録された種のうち、全国 47 都道府県及び環境省のレッドデータ記載種。「日本のレッドデータ検索システム」<http://www.jpnrdb.com/>を元に作成を行った。「RDB カテゴリ名」は地方自治体独自のカテゴリ名を示す。「統一カテゴリ」では全国の地方自治体のカテゴリを俯瞰しながら可能な限り統一の尺度をもった表示を行っている。統一カテゴリは、絶滅種・絶滅危惧 類・絶滅危惧 類・準絶滅危惧種・情報不足・地域個体群・その他で分類が行われている。

種名	都道府県	RDBカテゴリ名	統一カテゴリ	
アオイスミレ	長崎県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	宮城県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	秋田県	絶滅危惧種IA類(CR)	絶滅危惧 類	
	山形県	絶滅危惧種IA類(CR)	絶滅危惧 類	
	茨城県	希少種(R)	準絶滅危惧種	
	群馬県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
	埼玉県	絶滅危惧IA類(CR)	絶滅危惧 類	
	千葉県	要保護生物(C)	絶滅危惧 類	
	東京都	Bランク	絶滅危惧 類	
	神奈川県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	新潟県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	富山県	危急種	絶滅危惧 類	
	石川県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	福井県	県地域絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
	山梨県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	長野県	絶滅危惧IB類(EN)	絶滅危惧 類	
	静岡県	要注目種(N)	その他	
	滋賀県	分布上重要種	その他	
	大阪府	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
	奈良県	絶滅危惧種	絶滅危惧 類	
	香川県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	佐賀県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
	鹿児島県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
アマナ	宮城県	絶滅危惧 類(CR+EN)	絶滅危惧 類	
	福島県	準絶滅危惧種(C)	準絶滅危惧種	
	埼玉県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	千葉県	要保護生物(C)	絶滅危惧 類	
	石川県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	静岡県	要注目種(N)	その他	
	三重県	準絶滅危惧	準絶滅危惧種	
	奈良県	希少種	準絶滅危惧種	
	佐賀県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
	千葉県	一般保護生物(D)	準絶滅危惧種	
	石川県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	鳥取県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	山口県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	佐賀県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
イチリンソウ	新潟県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	兵庫県	要調査	情報不足	
	山口県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	愛媛県	情報不足(DD)	情報不足	
	高知県	情報不足(DD)	情報不足	
	新潟県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	富山県	希少種	準絶滅危惧種	
	福井県	県域準絶滅危惧	準絶滅危惧種	
	鹿児島県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
	群馬県	注目	その他	
イヌザクラ	東京都	Cランク	準絶滅危惧種	
	神奈川県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	大阪府	要注目	その他	
	鹿児島県	分布特性上重要	その他	
	埼玉県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	東京都	Cランク	準絶滅危惧種	
	山梨県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	和歌山県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	徳島県	絶滅危惧 類(CR+EN)	絶滅危惧 類	
	福岡県	情報不足(DD)	情報不足	
ウミズザクラ	佐賀県	準絶滅危惧	準絶滅危惧種	
	鹿児島県	準絶滅危惧(NT+LP)	準絶滅危惧種	
	新潟県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	兵庫県	要調査	情報不足	
	山口県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	愛媛県	情報不足(DD)	情報不足	
	高知県	情報不足(DD)	情報不足	
	新潟県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	富山県	希少種	準絶滅危惧種	
	福井県	県域準絶滅危惧	準絶滅危惧種	
オオバジャノヒゲ	鹿児島県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
	群馬県	注目	その他	
	東京都	Cランク	準絶滅危惧種	
	神奈川県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	大阪府	要注目	その他	
	鹿児島県	分布特性上重要	その他	
	埼玉県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	東京都	Cランク	準絶滅危惧種	
	山梨県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	和歌山県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
オモト	徳島県	絶滅危惧 類(CR+EN)	絶滅危惧 類	
	福岡県	情報不足(DD)	情報不足	
	佐賀県	準絶滅危惧	準絶滅危惧種	
	鹿児島県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
	宮城県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	沖縄県	絶滅危惧 A類(CR)	絶滅危惧 類	
	環境省RDB	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	青森県	重要希少野生生物(Bランク)	絶滅危惧 類	
	キツネノカミソリ	岩手県	Aランク	絶滅危惧 類
		宮城県	絶滅危惧 類(CR+EN)	絶滅危惧 類
秋田県		絶滅危惧 B類(EN)	絶滅危惧 類	
山形県		絶滅危惧 A類(CR)	絶滅危惧 類	
福島県		準絶滅危惧種(C)	準絶滅危惧種	
栃木県		絶滅危惧 類(Bランク)	絶滅危惧 類	
群馬県		絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
埼玉県		絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
千葉県		一般保護生物(D)	準絶滅危惧種	
神奈川県		絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
キツネノマゴ	新潟県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	富山県	危急種	絶滅危惧 類	
	石川県	絶滅危惧 類(CR+EN)	絶滅危惧 類	
	福井県	県域絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
	山梨県	絶滅危惧種 B類(EN)	絶滅危惧 類	
	長野県	絶滅危惧 B類(EN)	絶滅危惧 類	
	岐阜県	準絶滅危惧	準絶滅危惧種	
	静岡県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	愛知県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	三重県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
キンミズヒキ	滋賀県	希少種	準絶滅危惧種	
	京都府	準絶滅危惧種	準絶滅危惧種	
	大阪府	要注目	その他	
	兵庫県	Cランク	準絶滅危惧種	
	奈良県	希少種	準絶滅危惧種	
	和歌山県	絶滅危惧 B類(EN)	絶滅危惧 類	
	鳥根県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	岡山県	準絶滅危惧	準絶滅危惧種	
	広島県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	山口県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
キンラン	徳島県	絶滅危惧 類(CR+EN)	絶滅危惧 類	
	岩手県	Cランク	準絶滅危惧種	
	宮城県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	秋田県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	山形県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	福島県	絶滅危惧 類(B)	絶滅危惧 類	
	栃木県	絶滅危惧 類(Bランク)	絶滅危惧 類	
	群馬県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
	埼玉県	絶滅危惧 A類(CR)	絶滅危惧 類	
	千葉県	要保護生物(C)	絶滅危惧 類	
ギンラン	富山県	危急種	絶滅危惧 類	
	石川県	絶滅危惧 類(CR+EN)	絶滅危惧 類	
	山梨県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	長野県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	三重県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
	滋賀県	希少種	準絶滅危惧種	
	京都府	準絶滅危惧種	準絶滅危惧種	
	大阪府	要注目	その他	
	兵庫県	Cランク	準絶滅危惧種	
	奈良県	希少種	準絶滅危惧種	

表2 植生調査で記録された種のうち、全国47都道府県及び環境省のレッドデータ記載種。(続き)

種名	都道府県	RDBカテゴリ名	統一カテゴリ	
ギンラン	香川県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	愛媛県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	佐賀県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
	長崎県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	熊本県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	大分県	準絶滅危惧(準)	準絶滅危惧種	
	宮崎県	絶滅危惧 類(VU-r.g)	絶滅危惧 類	
	鹿児島県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
クサノオウ	鹿児島県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
クサボケ	宮城県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	秋田県	絶滅危惧種 B類(EN)	絶滅危惧 類	
	山形県	絶滅危惧 B類(EN)	絶滅危惧 類	
	新潟県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	石川県	絶滅危惧 類(CR+EN)	絶滅危惧 類	
	福井県	県域絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
	兵庫県	Bランク	絶滅危惧 類	
	奈良県	情報不足種	情報不足	
	岡山県	危急種	絶滅危惧 類	
	香川県	絶滅危惧 類(CR+EN)	絶滅危惧 類	
	長崎県	絶滅危惧 B類(EN)	絶滅危惧 類	
	熊本県	絶滅危惧 A類(CR)	絶滅危惧 類	
	大分県	準絶滅危惧(準)	準絶滅危惧種	
	宮崎県	絶滅危惧 A類(CR-r.g.d)	絶滅危惧 類	
	鹿児島県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
	ケヤキ	鹿児島県	準絶滅危惧(NT+LP)	準絶滅危惧種
	コゴメウツギ	秋田県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類
		新潟県	地域個体群(LP)	地域個体群
		福井県	県域絶滅危惧 類	絶滅危惧 類
		鳥取県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種
コブシ	鹿児島県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
	三重県	県域絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
	京都府	準絶滅危惧	準絶滅危惧種	
	大阪府	情報不足	情報不足	
シオデ	奈良県	情報不足種	情報不足	
	鹿児島県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
ジロボウエンゴサク	鹿児島県	準絶滅危惧(NT+LP)	準絶滅危惧種	
	福島県	未評価(NE)	その他	
	石川県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	山梨県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	長野県	絶滅(EX)	絶滅種	
	滋賀県	要注目種	情報不足	
ジャノヒゲ	山口県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	鹿児島県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
ツルニンジン	鹿児島県	準絶滅危惧(NT+LP)	準絶滅危惧種	
	東京都	Cランク	準絶滅危惧種	
ツルボ	鹿児島県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	
	宮城県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
ナンテンハギ	秋田県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種	
	秋田県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
	東京都	Cランク	準絶滅危惧種	
	京都府	要注目種	その他	
	奈良県	絶滅危惧種	絶滅危惧 類	
	山口県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類	
鹿児島県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類		

種名	都道府県	RDBカテゴリ名	統一カテゴリ
ニガキ	鹿児島県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種
ニシキギ	新潟県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種
	福井県	県域準絶滅危惧	準絶滅危惧種
	鹿児島県	準絶滅危惧(NT+LP)	準絶滅危惧種
ニリンソウ	千葉県	一般保護生物(D)	準絶滅危惧種
	和歌山県	絶滅危惧 B類(EN)	絶滅危惧 類
	島根県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類
ヌスビトハギ	佐賀県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類
	沖縄県	絶滅危惧 A類(CR)	絶滅危惧 類
ヌルデ	沖縄県	絶滅危惧 A類(CR)	絶滅危惧 類
ノカンソウ	青森県	希少野生生物(Cランク)	準絶滅危惧種
	秋田県	準絶滅危惧種(NT)	準絶滅危惧種
	群馬県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類
	新潟県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種
	石川県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類
	福井県	県域絶滅危惧 類	絶滅危惧 類
	三重県	準絶滅危惧	準絶滅危惧種
	滋賀県	希少種	準絶滅危惧種
	大阪府	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類
	奈良県	希少種	準絶滅危惧種
	長崎県	絶滅危惧 A類(CR)	絶滅危惧 類
	熊本県	絶滅危惧 A類(CR)	絶滅危惧 類
	大分県	絶滅危惧 B類(B)	絶滅危惧 類
	ハエドクソウ	鹿児島県	準絶滅危惧(NT+LP)
フレンドウ	京都府	準絶滅危惧種	準絶滅危惧種
	奈良県	絶滅危惧種	絶滅危惧 類
	鹿児島県	分布重要	その他
ヒトリシズカ	和歌山県	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧種
フジ	鹿児島県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類
	熊本県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類
マンリョウ	鹿児島県	準絶滅危惧(NT+LP)	準絶滅危惧種
	福島県	準絶滅危惧種(C)	準絶滅危惧種
ミヤマウグイスカグラ	富山県	絶滅危惧種	絶滅危惧 類
	石川県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類
	千葉県	一般保護生物(D)	準絶滅危惧種
ムクノキ	鹿児島県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類
	富山県	希少種	準絶滅危惧種
	長野県	絶滅危惧種 B類(EN)	絶滅危惧 類
	沖縄県	絶滅危惧種 B類(EN)	絶滅危惧 類
ヤブソテツ	秋田県	絶滅危惧種 B類(EN)	絶滅危惧 類
	東京都	Cランク	準絶滅危惧種
ヤマコウバシ	鹿児島県	準絶滅危惧(NT+LP)	準絶滅危惧種
	福島県	準絶滅危惧(C)	準絶滅危惧種
	新潟県	絶滅危惧 類(VU)	絶滅危惧 類
鹿児島県	絶滅危惧 類	絶滅危惧 類	